

小学校4年生～6年生の部

* 作品は原文のまま掲載しています。

宮城県知事賞

みんなで守る交通安全

美里町立北浦小学校 五年 佐々木 洋

ぼくには、お母さんの方のおばあちゃんが居ません。前に、お母さんの、お母さんは？」と聞いたら あーもう亡くなったから居ないんだよ。」と言われました。ぼくは、聞かなくて良かったなと思いました。お母さんに、聞くのは、かわいそうだったから、お父さんに聞きました。

お母さんが小学生の時、家の近くの横断歩道を渡っていたおばあちゃんは、バイクにはねられて頭を強く打って亡くなってしまったそうです。朝食は、いつもの様に一緒に食べたのに、お昼には亡くなってしまった。その日の朝食は、レーズンパンを食べたから、その日から、お母さんは悲しい気持ちになるからレーズンパンを嫌いになったと、お父さんが教えてくれました。

家の近くの横断歩道も、通るたびに思い出してしまいそうだし、お母さんやおじいちゃんやんは沢山泣いたと思います。ぼくは、おばあちゃんに会いたかったし、きつと、おばあちゃんもぼくに会いたかったと思います。交通事故は、未来まで大きく変えてしまうからとても悲しいです。

今年、ぼくは、五年生になって交通安全教室の後から、自転車も学区内を乗れる事になり遠くまで行けそうな気分になりました。

だけど、この前は家から自転車で行った後に、バランスをくずしておもいきり転びました。はいていたズボンが破けて、ヒザからは血が出ていました。ぼくは、気をつけていたつもりだったけど、ふとしたしゅん間に事故は起こるのかなと思いました。それから、歩くよりも自転車はスピードもでるのでケガも大きくなってしまふのかなと、こわくなりました。

ぼくが朝に、学校に行く時、お母さんも気をつけるから、洋服も気をつけていってね。」と、声をかけられます。そう言われると、急いでいる時でも気持ちがピンとします。大切な人が事故にあうのは嫌だし、ぼくも悲しい思いはさせたくないです。

交通安全の輪が大きく広がるように、みんなで声をかけ合いたいです。

ぼくは、交通ルールを守るので、この作文を読んだ人にも交通安全に気をつけてほしいなと思います。

宮城県警察本部長賞

わたしとピーちゃんとの約束

石巻市立住吉小学校 五年 後藤 琉菜

わたしには今年八十六歳になるピーちゃんがあります。ピーちゃんはせすじもまがつてないし、畑仕事をしていた元気で。ただ耳が少しだけ悪いです。

テレビを見ているとニュースで高れい者の運転事をよく目にします。年れいを見ると八十さい以上の人もいます。家のピーちゃんと同じ年の人だなと思います。

ピーちゃんにお母さんがまだめんきよへんのうしなら買ひ物や病院に行くのに大変だし、なにによりわたし達に会いにこれなくなるのがいやだと言っていました。

車がなくなつたらと考えてみたらわたしでもいやだと思ひました。電車やバスだと行きたい所へすぐ行けないしタクシーをたのめばお金いづばいかかるし大変だと思ひました。ピーちゃんはまだまだだいじょうぶだからと言ひました。

それに対してお母さんがだいじょうぶなのは分かつたけどでもね事をおこしてからではおそいんだよ事をおこしたらみんなにめいわくかけるだけでなく孫達にも会えなくなつちやうよと言ひました。

ピーちゃんは遊びにくると大好きだよとか長生きしなきゃなと言ひうのが口ぐせです。わたしもそんなピーちゃんが大好きです。だからわたしもまんがいち事をおこしてピーちゃんと会えなくなつたら悲しいと伝えるとピーちゃんはじゃあ今年だけだと言ひてくれました。

来年にはめんきよへんのうししてくれる約束をピーちゃんとしました。ピーちゃんに本当は何さいまで乗りたいのと聞いたら九十さいまで乗りたいなと笑っていました。

わたしはだいじょうぶそれはみんなどこかで一度は思つたことがあると思ひます。でも時にはだいじょうぶじゃすまなかつた事もあると思ひます。

ピーちゃんはいじょうぶだよと言ひてもわたしはニュースで見た高れい者の事にはなつてほしくないのよピーちゃんにわたしの気持ちを伝えてめんきよへんのうししてくれと言ひてくれてうれしかったのよとすこく安心しました。へんのうするまで何ヶ月かありますがいづものように安全運転でへんのうの日がきてほしいなと思ひます。

ピーちゃんとの初めての約束。みんなもピーちゃんと約束してみてください。わたしとピーちゃんのように約束をして少しでも高れい者の人が早めにめんきよへんのうしてくれれば高れい者の事もへんじやないかなと思ひます。

小学校4年生～6年生の部

* 作品は原文のまま掲載しています。

宮城県教育委員会教育長賞

大切な人の心や体を交通事故から守る

亘理町立荒浜小学校 六年 武藏 悠翔

ボガンツ

ぼくは、その音を今でも覚えてます。あれは、ぼくが六才のころのことです。お母さんが運転手でお父さんとぼくは後部座席に座っていました。お母さんが直線道路を走行中に、一時停止をしなかつた相手の車がぼくの車にぶつかってきました。ぼくはこわくて泣いてしまったのを覚えてます。幸いにも家族二人はむち打ちですみましたが、お母さんの車は廃車になったそうです。

時がたち体の傷は治りました。しかし、心の傷はいつまでも消えないものです。ぼくはそれ以来、大きな音があると体が「ビクッ」と反応するようになってしまいました。

この事故でふと思つたことがあります。最近、片手にスマホを持ち、耳にはイヤホンをつけて自転車を運転している人を見かけます。その人は、とっさの時、対応ができるのでしょうか。自分の目の先の快楽と、その先にある未来を比べたとき、どちらが大切でしょうか。「瞬の不注意が事故をまねく」という言葉があるとおり、一瞬でも気を抜くと交通事故のもとになってしまいます。警察が見ていないからいいや。「見られていないから少しぐらいやつてもいいだろう。」というあまい気持ちがあると、事故をまねきやすくなつてしまふと思います。だから、その気持ちを捨て、家などでケータイをすると事故を減らせると思います。

不注意で思い出したことがあります。今はヘルメットを必ずかぶるというルールになりましたが、まだかぶっていない人をよく見かけます。ぼくの妹は、ヘルメットをかぶっていましたが、ヘルメットのベルトがゆるかつたために転倒して額を三針縫うけがをしてしまいました。ヘルメットをかぶればいだけではなく、自分の大きさに合ったサイズとベルトの調整も大切だと思います。

事故は一瞬の不注意と油断が大きな割合を占めていると思います。みんなが互いのことを思いやつて交通ルールを守り、注意し合えば、事故は未然にふせげるとぼくは考えます。これからは、家族や友達の不注意な行動を見かけたら、声をかけて未然防止をしていきます。そして、大切な人の心や体を、交通事故から守つていきたいです。

一般社団法人 宮城県交通安全協会会長賞

小さい事故から気をつけて

加美町立東小野田小学校 六年 高嶋 葵

先生が、みんなに言いました。ヒヤリハットつて知っていますか。」

私は何だろうと思いました。それは、大きな事故の前には、軽い事故や、事故にもならないような、ヒヤリとする出来事がいくつか起きていますよ、というお話でした。

その話をきいて、私は、自分にも経験があるな、と思いました。

小学五年生の時の帰り道で、道をわたるときに右と左を確認するのをわすれてしまい、近くまで車がきているのに道をわたってしまったことがあります。その時は友達に「危ないよ」と言われて、走つてわたつたのだと思います。右と左を見てからわたるといふのはついでなかつたら車にぶつかつていたかもしれません。右と左を見てからわたるといふのは何回も聞いてきたことだし、あたり前のことだと思つていて、学校の帰り道はつかれてわすれてしまうことがあるので気を付けたいなと思いました。

今年に入つてからも、後ろから車がきている事に気付かず、ひかれそうになつてしまったことがあります。友達がひかれるよと言つてくれたのですが、ボーンとしてそれにも気が付きませんでした。ギリギリ車とぶつかる前に気付いて横に急いでよけたのでぶつかりませんでした。気付いてなかつたらぶつかつていました。

私が少し思い返しただけでも、二つの出来事がありました。学級で、先生が、けがはしなかつたけど、あぶない目にあつたということはありませんか。」と聞いたら、ほとんどの友達が手を挙げました。もちろん私もです。友達の中には、自転車で転んでけがをした人もいましたし、私のように、あやうく車にぶつかりそうになつた人もいました。

私のまわりでは、命にかかわるような大きな事故にあつた人はいません。でも、ヒヤリハットの法則で考えてみると、いつ、どこで事故が起きてもおかしくなくらい、小さな事故が起つているんだと分かりました。私の住む町は、車もあんまり通らないし、歩行者を優先してくれることも多いです。もう高学年だからとゆだんせず、交通ルールやマナーを思い出して、気をつけたいです。

小学校4年生～6年生の部

* 作品は原文のまま掲載しています。

宮城県PTA連合会長賞

横断歩道について私の考え

白石市立白石第一小学校 六年 八巻 歩乃樺

私は、五つの横断歩道をわたって小学校へ登校しています。

以前にテレビのニュースで信号が青で横断歩道をわたっている小学生のところに、車がぶつかってきてけがをするというニュースを見ました。そのようなことから、信号が青でもまわりに注意して横断歩道をわたらなければと思いました。

また、こんなこともありました。お母さんの車に乗っている時に、急に信号がないところで車を止めたので、なぜだろうかと思っていたら、横断歩道をわたっている人がいました。その時にお母さんが車を運転している人は、横断歩道で待っている人がいたら止まらないとだめなんだよ。宮城県は横断歩道の所で止まらない県ワースト一位なんだよ。」と話をしてくれました。だから、この作文を書く時にその話を思い出して、私は横断歩道について少し調べてみようと思いました。

宮城県は、二〇二〇年は一時停止率が五・七%でワースト一位だったようです。しかし、二〇二二年には一時停止率は五・四%になり全国でトップ4位になるまでになったようです。その一年間に、けいさつの方々の努力と、県や関係団体の方々がさまざまな形のキャンペーンを行い、止まるというルールの再かくにんや意気の向上、宮城県民の人が、最下位を残念に思い、止まるようになったことがこのすばらしい結果になったのだと思います。

私はこれからも今までと同じように小学校へ登校するときや、友達とあそびに行く時などに横断歩道をわたるとき、安全確にんをして注意してわたり、止まってくれた車にはきちんとおじぎをしようと思います。

そして、私が大人になって車を運転する時は、横断歩道で待っている人がいたら、しっかりと車を止めて、わたらせてあげられるような大人になりたいと思います。